

研究資料

佐伯藩 藩政條目 (山)

山田平之丞

(顧問・佐田中北中丞)

本稿は佐藤鶴彦著「稿本南海郡部史」及び「鶴城叢誌」による。

佐伯藩の法度日幕府所定の條目を標準として之を定め、以て藩治の憲法と爲したるが、六代周防守高慶の時、元禄十四年九月新に條目十五ヶ條を制定して封内に施し、次で享保七年六月又五ヶ條を追加して之を補い、寛保二年十一月更に四十六條を制定して大いに完備せしめた。此の條文は名づけて五人組帖と稱する。領内の人民を五戸宛一組とし、每户互に警めて法令を格守せしめんとしたるのである。其後九代美濃守高誠家とつぐにあらたり、六條を追加して先根を補足し、明治維新に及んたまでである。

第一節 元禄所定の條目

條目之事

- 一、武藝專ラ可ニ相嗜ニ事
- 一、切支丹宗門之義、御禁制之趣、前々より公儀より被仰出ニ候條、猶以可ニ遊ニ吟味ニ事
- 一、諸役人寄合評議之節、不依ニ善惡、且に所存之趣無遠慮一可ニ申立ニ。雖然一身之存意を以テ申、他之存寄と不用義者全ク無ニ其益、縦ヒ細少之減たりといふと、無ニ親疎之隔、專任ニ道理之旨、萬端有体に可相斗ニ事

ふと、無ニ親疎之隔、專任ニ道理之旨、萬端有体に可相斗ニ事

一、地方檢見之節以後免合相究候節者遂ニ相諍、無ニ甲乙ノ平均に可ニ申付ニ事

一、役人共其後義に付、萬事入念儉約に可ニ相勤ニ事

一、役人共其外家中之者共、在々浦々に罷出候節者、所々馳走音物堅不可受ニ事

一、爲ニ私用ニ百貫之財産不可貪ニ事

一、上下共守ニ礼節、其分限過不及行跡無之可ニ相悞ニ事

一、所召仕之者其主人より可ニ申付ニ事

一、近習外縁之者共當番之節、詰所不明、操可ニ相勤ニ之、解怠之輩於有之旨可ニ爲ニ越度ニ事

一、屋作並ニ衣服器賤者不可好美麗、衣類ハ有米ノ之ものを用ひ、且布木面を可着用ニ事

一、侍共並ニ輕きものに至迄上下往來之節、餞別土産可ニ爲ニ無用ニ事

一、惣而殺生令ニ停止ニ候事

一、博奕諸勝負如ニ先規、可ニ禁止ニ事

一、古條々可ニ相守之、若教令違犯之輩者急度可ニ知ニ誠者也 仍如件

元禄九年九月

第二節 享保五條之定

一、學問武博學に無之而茂不苦、道理斗りと實上候條可致

一、武具には事かがざる様たし、及其上にて分限に應し可申事

一、軍法馬劍術鎗術柔術捕手棒鉞炮水練具外都而、武術

一 昔稽古三陵分心懸精出シ可申事
酒宴相撲、遊獵茶湯能離子操狂言琴三味線鞠
詩歌碁將茶雙六謡舞平家是等の儀日不嫌して
強好日悪敷候事

一 神針を信仰シ他之善惡に不構自己を□□なく養生
專一に無隨我係なる心生ずるに於ては早速改候様心
懸候事第一、武道と及聞候事
右之趣可相定者也

于時享保ハ冬卯大呂申出 高寛書

第三節 寛保五人組帖

覺

一 従ニ公儀前々被ニ仰出候御法度之趣 誦堅相守之
在浦大小百姓漁師下人等に至迄御制法少も相背中間
敷候事

一 切支丹宗門之義 累年御禁制之通堅相守五人組切ニ
常々心を附不審成者有之ニ早速可ニ注進之他所より
顯はるるに於ては大庄屋小庄屋者勿論一類共ニ急度
嚴科可被御付候 惣て御法度之不受不施非典之法華
宗ハ相ニ改之一毎年二月中宗門改帖可ニ差出之勿論前
前之通切支丹宗門にて無之段人別改を請へき事
附守院之義若其本寺より本寺に紛れ無之段証文可
差出候 且又右切支丹類族之者死失出産縁組仕
候得者其旨早速可ニ注進一事

一 伴天連御高札に被ニ仰出候通、浦々島々に寄せ未り
候船々迄心を附不審成様子有之候日早速可ニ注進
事

一 唐物被々荷御法度之儀者別紙書付を以て申付置候通急
度可ニ相守候事

一 百姓身持之義 諸事奮り仕り間敷候 第一御年貢御役
等大切に相勤 農業専ら措と出し、作間、稼見計ら聊
疲世油断不仕 朝夕之食物も雜穀と左心候様は妻子等
にも申付 百姓相睦致候様に勵む可し 勿論親に孝を
盡し下人は主に隨ひ、夫婦兄弟親類に睦しく、下人等
に憐慈を加ふ可し。惣て百姓停輩物事に左もしく順
路可仕候 若不忘不考之者有之ハ異見仕り其儀不用華
は其旨書付に記シ可ニ申出候事

附常々耕作並に商売等も不仕家業無之心左て悪敷或
は人に妨となし或は喧嘩口論喧嘩行等仕り、庄屋
五人組ノ意見をも承引不仕不届者有之ハ以書付一
申出 縦令申立に不茂悪事にても不見届不人板ノ
者又可ニ申出候事

一 鶴、白鳥惣て大鳥取候義は勿論他所より持来候共買取
高売中間敷候事

一 椅子ハ堅仕間敷候 若他類より捨置候得者村中にて養
育致し其旨可ニ注進一事

一 馬ノ筋ノハ中間敷候 尤牛馬賣買仕候得者跡々出所
改め能々遂ニ吟味 諸人を立手形ヲ取り五人組ハ断り賣
買可仕候 不審成牛馬買申間敷候事
附耕作ノ場所に午馬放ち中間敷候事

一 五人組ノ義最寄火第家立軒窓組合 子供並ニ高下之者
店借地借借屋之者迄村中一人も不残五人組人別に入
可申候 尤村中百姓下人等且又出家社家山伏に至迄悪
事不仕候に組中相互に常々無由断吟味可仕候若ハ左
へら昔有之ハ早速可ニ注進一事

附五人組宗門帳惣て公用に押候印形之外用ニ中間敷

横村中百姓の印形ハ大庄屋小庄屋方へ不_レ預置_二御
田私田共に其子細聞届_レ得心_二の上印判可_レ仕候若
落し候歟仔細有_レて印形替候得者可_レ断_二出_一之勿
論名改メ候得者是又可_二申出_一候事

一 他國より立越永々仕居致_ス者有_レ之歟又昔当分仕居致
度旨申_ス者有_レ之共無断_二不可_レ差置_一若無_二據所_一仔細
細有_レ之由 侍浪人は主人之様無_レ之旨証文並_二宗門等
取_二諸証文之書付_一相添差出下知可_レ請事

附他所へ奉公致し他領親戚方へ懸越年久敷有_レ之
五人組とも離れ其以後立帰候者有_レ之其村々大
庄屋小庄屋方より先へ断申違構無_レ之者書付を
以て申出差出を請可_レ差置_二事

一 御立山竹木之義日不_レ及申 百姓の持山方りといふ共
無_レ断限に候採申問敷候事

一 御法度之田地永代賣買一切仕問敷 田地賃物に取引
仕候共年季を定大庄屋小庄屋五人組加判にて雙方
より証文取替し可_レ相極_二庄屋五人組_一無_レ加判_一に於
て日其田地取上雙方急度越度可_二申付_一候 勿論賃入
田地之義ハ預り候者之方より年貢請役等相勤年季之
義拾_二年を限る_一 年季増候歟或枝手形等取引之
義仕問敷候事

前諸年貢爲_二收納_一金銀借り貸仕候共大庄屋小庄屋
裏判にてこれより可_レ相極_二自今以後大庄屋小庄
屋裏判無_レ之手形に 御年貢納所限に借用候て書
入有候も出入に及候得者品に依り取上げ申問敷
事

一 徒党を結ひ誓約をなし常口公事出入を好_レむ悪事_一に及
びたり者有_レ之申出がべし 遂_二詮議_一頭取日不_レ及
申 一統の輩科之輕重を亂し急度仰仕置申付べし

若隱蓋候得者其五人組迄可_レ爲_二由事_一事

附何事に依らず公事訴訟之義に日一列仕問敷候
經て公事沙汰に及候義は必竟百姓困窮の基に候
條常々可_レ候_レ之 且又御中にて騒動々問敷候又
日不應_レ候出永候得者早々可_レ注進_二事

一 人賣買御割祭たり事公人者年季を限らず譜代に召置
候共相對次第左るべし但本主人障有_レ之者召抱_二べ
からず 勿論一季半季居たる者左りと云ふ共慥なる
請人取立可_レ抱_二事

附由証にて襪に人受_レ立べからず 雖然夜類縁者
身分出所能_レ存じ慥成者にて不適_レ有_レ之由 大
庄屋小庄屋五人組へ相違候上請人に可_レ立_二事

一 人宿之事一人皆_レ宿貸すべからず往還之者飛脚其外
獨者にて往來手形有_レ之由能_レ見届候上可_レ貸_二之
若旅人当分煩_レ申敷又昔用事有_レ之候て今_二滞留_一者旨
趣承り届々大庄屋小庄屋方へ相違一兩日有_レ可_レ差置_二
日敷を經差置_二仔細可_レ注進_一 惣て怪敷者に一切宿
貸申問敷事

一 他所へ奉公へ罷越候敷他國へ諸高賣等惣て用事有_レ之
て參り候共願書差出往來手形取_レ之可_レ相越_二事

一 他所より來り候高人出家山伏行人虛無階座頭ゴ七其
外物費之類に宿賃候義有_レ之由大庄屋小庄屋へ相違往
來手形、有無其様子見届候義於_レ無_レ之昔宿賃_二べし
惣て行衛不知者に一夜の宿も不可_レ借_二之親類縁者他
人にて用事有_レ之由一夜より共泊り候は_二大庄屋小
庄屋、内へ可_レ相断_一之 右輩、若三日を過令_二滞留_一
若文庄屋致_二吟詠_一可_レ申候但商人の義は或商買の品海
上日和を待ち無據仔細有_レ之者令_二滞留_一者たとひ日敷
三日を經し昔其旨可_レ申出一候事

附他領より相越候山伏行人虚無僧燈子才口シ鉢夕

夕キ鐘打穢多乞食非人の類テ御立山又昔入相の
山に差置愛党昔の宿致せば後日に聞へ候共詮裁
の上大庄屋小庄屋越度ニ可申付一事

一、他國より越来り候又落者有之は其仔細承り届出 出所
人数ノ多数刻限等細に書記之早々可注進之一萬一此
方より他方へ又落致ス者有之は是又早速可注進一事

附他領より追掛、者自領の民屋へ又込ミ於有之
者不及是非一追手の者ヲ可召捕ト云ふ共卒爾
に不可相渡一番人を附置早々可注進一事

一、他領の沙汰虚実者無構候間承り次第可申出 一事
一、殺害人或者自滅いたし候者或昔行倒れ者有之者其所に
番人を附置可注進一事

附他所より参り候手負ヒ之義昔不及申 御中ノ者
手負候者有之は見届次第可注進一事

一、悪漢並ニ盗人有之時者鳴り立つべし 近郷ノ者聞付次
第相互に可監集 自然堂宮山林にかり有之を見出
し候はば大庄屋小庄屋並一郷ノ者罷出捕へ置申出づ
べし 若し手に餘り候はば遠巻にいたし早々可注進事

一、百姓に不似合ノ風俗きいたし又且市町へ長脇指をさし
罷出候義令三停止之候 且又浪人侍と相立並寺社の寺
社の寺にては田畑を作り百姓中間に入候はば請事百姓
同然に可相心得一事

一、村中に喧嘩有之節馳集候間際に人を討立逃候者有之
は隣郷の者共走り着捕へ置早速注進すべし 捕へ候義
難成立遠候得者跡と慕ひ落着く所へ急度申届け其上可
注進一事

一、博奕惣て賭の諸勝負或は辭に事とよせ博奕に似たる我
行にても一切仕間敷候 勿論右之類之者に猶以て宿寺

堅く仕間敷事

附及大酒・辭狂仕間敷事

資料

舊藩府御役名及帝順

(享和三年)

模供 千 日 幸 市

御家老	大納戸役	御子誓御附	御用人物書
御中老	大御苗守居	御檢鈔奉行	御膳方
御番頭	御苗守居	御今米役	御檢方
御傳役	御船奉行	御下屋敷守	御水ノ下役
御用人	御刀番役	御馬役	御水ノ下役
御小姓頭	御下屋敷	御山奉行	御水ノ下役
御郡代	御御屋居	御徒士小頭	御水ノ下役
御物頭	諸小御屋居	御徒士目附	御水ノ下役
御留守居	御小御屋居	御家老書役	御水ノ下役
御取次	御善番	御香頭書役	御水ノ下役
御奥家老	御小御屋居	御檢鈔掛	御水ノ下役
御奉行	御書物奉行	御方支配	御水ノ下役
御目附	御祐筆役	御用人書役	御水ノ下役
神社奉行	御勘定頭	坊主頭	御水ノ下役
御從士頭	御御請役	御料理人	御水ノ下役
御武具奉行	御代官	御船頭	御水ノ下役
御銀奉行	御作事奉行	足輕小頭	御水ノ下役
御浦奉行	屋敷奉行	小人頭	御水ノ下役
江戸本々	御臈役	賄人	御水ノ下役

(以下文字)

(以上)

○鶴成義卷十七号に
よる。
○御典匠の役名庶決
見当りす